

大切な自然

パートII

甲賀市内の大切な自然が存在する地域について紹介します

●第11回●
野洲川の渓谷



カジカガエルのヘア

まだ残暑の続くこの時期、涼しい溪流に行くのは、気持ち良いものです。

野洲川の上流は、標高1,000m前後の鈴鹿山地の深い渓谷で、冷たい水と涼しい環境には、溪流

に特有の生き物がすんでいます。今回はその中で、溪流のカエルを紹介しします。

カジカガエルのオスは、早瀬の中に突き出した岩になわばりもち、初夏から夏にかけて「フィフィフィ…」と高く美しい声で鳴きます。よく野鳥の声と間違える人もいます。野洲川や田村川上流の溪流には、カジカガエルの声の響く美しい溪流が、まだあちこちにあります。

ナガレヒキガエルは、ヒキガエルの仲間ですが、溪流に専門にすむ種類です。こちらは目立つ声では鳴きませんが、滝のそばの水しぶきがかかる岩などに、じっと座っている姿を見かけます。市内では、野洲川源流の溪流に限って見られます。



ナガレヒキガエル

これらカエルの卵は、溪流の岸沿いの少し流れが緩い場所に産まれますが、オタマジャクシは、溪流の流れに負けないよう、口の周囲が吸盤状になっていて、石にへばり着くことができます。

みなくち子どもの森自然館
☎ 63-6712 FAX 63-0466

9月の休園日 1日(月)、8日(月)、15日(月)、22日(月)、24日(水)、29日(月)

お詫びと訂正
8月1日号で誤りがありました。お詫びして訂正します。
3～4行目
① 瀬田川に合流し、琵琶湖に流れ込んでいます。
② 瀬田川に合流する、琵琶湖・淀川水系の支流です。
17～18行目 ① 鶏鳴の滝は笹ヶ岳の東方にある
② 鶏鳴の滝は笹ヶ岳の西方にある

鳥獣害対策二ニュース

No.14

今回は雑草と獣害の関係について紹介しします。

サル、イノシシ、シカ等の野生獣にとつて冬期は山に食べるものが少なくなる時期です。当然この時期にエサが少なければ、個体数が抑制されることになると考えられます。

しかし、集落をよく見てみると、冬期とはいえ、青々とした雑草がたくさん生えている光景があちこちで見られます。これは、野生獣が増えてしまふ一因になるばかりか、農地やその周辺をよいエサ場と学習してしまふことにもつながりかねません。

特に、イネを刈り取った後に出てくる「ヒコバエ」は、野生獣の貴重なエサになっていることがわかっています。昨年の冬に県で調査された結果では、県内6か所の水田において、10a当たり平均で約200kgのヒコバエが食べられていました。1頭のシカが1日に3kgの草を食べるとすると、1枚の田んぼで実に2〜3か月分のエサを賄っていることになるのです。ヒコバエを減らすためには遅植えをするなど様々な方法が考えられますが、まずは秋耕を行い、稲株を鋤き込んでしまふように心がけてください。

また、畦畔、法面、農道沿いの青々とした雑草(緑草帯とよびます)も野

生獣には格好のエサになります。冬期の緑草帯は、最後の草刈りをいつ頃にしたかで、その量が異なってくる

です。表1は最終の草刈り時期の違

表1

最終草刈り実施時期	1月～2月の草地の状態
9月～11月上旬	緑草が多い
11月下旬～12月	緑草が少ない

ただし、この表はあくまでも目安です。最後の草刈りをいつごろ終えればよいかは、それぞれの地域の草の状態や環境条件を勘案して検討してみてください。

草刈り作業は獣害防止の観点からも大切な作業です。できるだけ集落の皆さんで、冬期の緑草帯が出現しにくい雑草管理に努めていただきますようお願いいたします。



問い合わせ
農業振興課 鳥獣害対策係
☎ 65-0734 FAX 63-4592